

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年八月度 入選句 (投稿総数千九百六十四句・小中学投句数千四百十七句)

特選

すぐそことずっと遠くが麦の秋 大垣市 加藤 柚季(小四) 選者 説田 祐子

今、この辺りでは、青々とした「稲」が育っていますが、この「稲」が植えられる前は、黄金色に色づいた「麦」が輪中いっぱいに広がっていました。「麦の秋」は、「麦秋」として、よく使われる「季語」ですが、小学四年生の作者が「麦の秋」として、ふるさと輪中のことを詠めたことは嬉しく思います。これからも身近な自然の移り変わりに心を寄せていってください。

サイダーがコップの中でおどりだす 大垣市 清水 きなり(小五)

「夏は暑いもの」と一言では言い切れない今年の暑さ。ついつい、冷たい飲み物、食べ物に手が伸びますね。私も久しぶりにサイダーを口にしました。しかし、作者は、サイダーを呑む前に、コップに注いだ時の様子をしっかりと見ていたのですね。サイダーをコップに注ぎ入れた瞬間、サイダーがあわを噴くように盛り上がったのでしょうか。その様子を「コップの中でおどりだす」としたところがとても面白いです。楽しい感じ方、表し方です。

友達にかけてかけられ水鉄ぼう 大垣市 伊藤 慶(小四)

この句も夏ならではの俳句です。暑い夏、友だちと水鉄砲遊びをしたのですね。水鉄砲遊びは楽しい遊びですが、どうかすると、「水が沢山かかり過ぎた」「水を使い過ぎだ」などとけんかになることもありますよね。しかし、この二人は、そんなことにはなりません。「かけてかけられ・・・」これが水遊びのルールですよ。二人の温かい友達関係が伝わってくる俳句です。

秀逸

夏の月父とコンビニ帰り道 大垣市 前川 政季(小四)

すいかわりころがるすいかおいかける 大垣市 吉田 飛鳥(小五)

雨蛙音楽会だ雨の中 大垣市 田中 應縁(小五)

つばめの子未来のつばさをひろげてる 大垣市 白石 七夏海(小六)

スイカ割り声が重なりとまどうよ 加茂郡川辺町 中村 春斗(中三)

日が昇り競争しだすせみの声 加茂郡川辺町 吉田 知城(中三)

引退前仲間の汗が涙のよう 加茂郡川辺町 坪内 そら(中三)

れいぞうこはたけのきゅうりふえていく 大垣市 渡部 美響(小二)

ざりがににぜったいかつよジャンケンポン 大垣市 伊藤 晟冴(小二)

せんぷうき私のなやみふきとばせ 大垣市 三宅 虹瑚(小六)

入選

かたつむりさわるといえににげこむよ 大垣市 日比 麻鈴(小四)
 お母さんゴキブリじゃないよカブトムシ 大垣市 富田 凱翔(小四)
 目覚ましの変わりに朝からせみの声 大垣市 新居 茜音(小四)
 しゃぼん玉どこまで飛ぶか見送りだ 大垣市 生駒 俐空(小四)
 たいようとひまわりむきあいごあいさつ 大垣市 丸本 優咲(小四)
 はじめてのいもうとわらうかきごおり 大垣市 篠田 明璃(小四)
 雨蛙 夜でも雨と歌い出す 大垣市 坂 煌太(小五)
 燕の子親の帰りを待っている 大垣市 堤 友希(小六)
 夕焼けに「じゃあね」と声がひびいてる 大垣市 中村 玲士(小六)
 山の中せみたちないてかいわする 大垣市 柴 家成(小六)

入選

ひまわりがコロナにまけずさいている 大垣市 栗田 眞帆(小四)
 花火がね思いを乗せて上がってく 加茂郡川辺町 末長 沙羅(中三)
 雨蛙 田んぼに向かって一直線 加茂郡川辺町 飯田 美聡(中三)
 ひまわりとどつちがたかいせいくらべ 大垣市 中屋 りひと(小二)
 パチパチとはなびもえがおもはじけてる 大垣市 たにかわ とうま(小二)
 なつのあさせみのなきごえめざましだ 大垣市 すあみれ ん(小二)
 雨の中必死に鳴くよ油ぜみ 大垣市 長谷 みおり(小四)
 ひまわりがお話してる太ようと 大垣市 北島 圭悟(小二)
 そうめんがハイスピードでかけまわる 大垣市 深見 佳輔(小四)
 かぶと虫ここぞというときのがしたな 大垣市 杉野 そう大(小四)

選者吟

草の葉のかすかに揺れて虫の声

祐 子